

これからはこれまで以上に、社会で活用できる資質・能力が求められる時代になります。では、新規開拓やAI（人工知能）を活用した「第4次産業革命」など…。また、教育界では明治維新以降三度の大改革となる「高大接続システム改革」を行おうとしています。これは、高等学校教育改革、大学教育改革、大学入試改革の3つを基本とするものです。これらの教育改革に伴い、来年度から「高校生のための学びの基礎診断」が導入される予定であり、また様々な授業でアクティブラーニングを取り入れたグループ学習などの授業研究が進んでいます。

これからはこれまで以上に、社会で活用できる資質・能力が求められる時代になります。では、新

「〇〇改革」という言葉を耳にする機会が増えています。「働き方改革」やAI（人工知能）を活用した「第4次産業革命」など…。また、教育界では明治維新以降三度の大改革となる「高大接続システム改革」を行おうとしています。これは、高等学校教育改革、大学教育改革、大学入試改革の3つを基本とするものです。これら

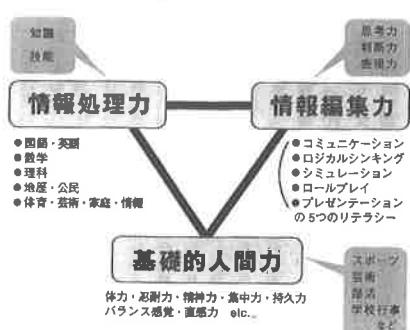
これからの方々へ ～社会とつながるために～

3年次主任 高橋久美子



天童高校進路部

図表① 「生きるチカラ」の三角形①



藤原和博著「10年度、君に仕事はあるのか?」P39より

しい時代を生き抜くために、求められる力とはどのようなものなのでしょうか。

教育改革実践家である藤原和博氏は「10年後、君に仕事はあるのか?」(ダイヤモンド社)の中で「生

ること。一方情報編集力とは、正解がないものや、正解が一つではない問題を解決する力であり広い意味での「学力」と言っています。さらに、図の逆三角形を大人になるまでにバランス良く育むことが「雇われる力」につながり、基礎学力と同様に人間の美德(誠実さ、ひたむきさ、やさしさのような美德)。処理でも編集でもないもの)を含む基礎的人間力が再発見されると予想しています。

西郷南洲翁遺訓(さいごうなんしゅうおういくん)青少年向け(NPO西郷隆盛公奉賛会発行)の中では、学ぶことの本当の意味を次のように述べています。

「よく勉強し、人にも好かれ、心が穏やかな人も、何か事が起こ

ったときにその対応ができない人は、木で作った人形のようなもの。たくさん的人が急に家にやつてきたとき、普段から何の準備もない人もてなしもできないけれど、普段から準備をしていれば、たとえ何人であろうとその数に応じても何人でもなしができる。だから、普段の準備が何よりも大事なこと。つまり、勉強というのはただ、文章を読んだり書いたりすることではなく、何かが起こったときにこれを上手に処置できる才能を磨くこと。時に学ぶことが困難であるとしても、どんな人間であるかは常に自身の意思で選ぶことができま



「進路内定状況」

進路部長 小林 雄一

〔平成二十九年度 三年次〕

〔平成二十九年度現在〕

進学者の内訳を昨年と比較すると、各種専門学校が減少、大学、短大、看護医療系専門学校がやや増加しています。進学全体として、職業に直結する資格志向が強いこと、また、県内および隣県への進学が多く地元志向が顕著であることは例年と同様です。

進学者の多くは、推薦・AO入試を中心に内定者が出ていますが、これらの入試は、夏季休業中から受験対策に加えて学力の定着が求められます。早い時期に目標を持ち、多くの経験を通して、より明確なものにすること。また、強い気持ちで学習に向かい努力を貫く姿勢が大切です。現在、大学、看護専門学校の一般受験を目指している生徒は、粘り強く頑張ってほしいと思います。

公務員は、山形県警察（警察官・行政）天童市消防、東根市消防、村山市行政、河北町行政、自衛官に、十三名が合格内定しました。高倍率の試験を突破できたことは、一年次から講習に参加し、計画的に学習内容を積み上げた結果と言えます。民間就職では、十二月末までに希望者全員が内定を決めました。好調な求人状況の中だからこそ、就職活動において、「会社や仕事

内容の情報収集」、「自分を理解し、自分に合った仕事を見極める」と、「目標達成のための準備」がより求められます。雇用環境が良くなつたとはいえ、企業の採用基準が下がつたわけではありません。本校でも三名が二回目の就職試験で内定を得ています。学力やコミュニケーション力はもちろん、「社会に出る覚悟とやる気」、「欠席がないこと」など求められるることは多くあります。入社してからが勝負であることを忘れず、自分を磨く努力を惜しまないでください。

変わる高校教育

1年次主任 鈴木 優子

大学入学者選抜改革です。平成32年、東京オリンピックの年から入試が変わります。国語・数学に記述式問題が導入されます。そして、英語。現行では、「読む」「聞く」のみのテストです。センター試験で一斉にヘッドホンをしてリスニングテストを受ける姿ももうお馴染になりました。32年度からは、これに、「話す」「書く」が加わります。どのように評価するのかというと、英検やGTEC等の外部検定試験を使用するのです。

ということは、英検やGTECに慣れてしまつた方がいい？もちろんそうです。むしろ、慣れなければなりません。慣れましょう。要するに「話す」「書く」力をつければいいのです。楽しきではない

ですか！新入生にいつも聞きます。「英語で何がしたい？」答えは決まります。英語教師の端くれとすれば、もちろん「社会に出る覚悟とやる気」、「欠席がないこと」など求められることが多いです。入社してからが勝負であることを忘れないでください。

しかし、今は話せるようになる授業が求められているのです。また、話すことができると、入試でも評価される時代になつたのです。そして英語で「話す」「書く」力が評価される時代になつたのです。そのためには、自分の目標を他者にしっかりと説明できますか？

進路実現のためには

2年次主任 小関 稔

高校生活でなすべきことはたくさんあります。将来の目標を立てて、その進路目標に向かつて今やるべきことを計画的に行う必要があります。2年次では進路実現に向けた学習として、小論文講座、ニユース検定学習、進路ガイダンスなどを実行してきました。また、外部での進学相談会なども掲示し

て参加を促してきました。自分の進路目標が明確に定まつていない場合には、担任との面談を通して自分の目標にして欲しいのですが、どうか！みんな話せるようになりますか？

明確な目標があり、それを実現するために日々努力を重ね、部活動との両立に苦労している人もいるかもしれません。目標があつち、こつちと揺らぐことがあります。入社してからが勝負であることを忘れないでください。

社会（日本も含む）にはびこる、貧困問題、他国からの脅威、紛争、難民問題等、を解決する手立てとして使えるかもしれません。そして、苦しい世界のだから助けとなることがもしかしたらできるかもしれません。そういう力となれば、願いを叶えるには多くの苦難があります。まずは家族に自分から支援がなければ、願いを叶えるには多くの苦難があります。まずは家族に自分から理解と進路・就職先の十分な情報を不可欠になります。今でくることを確実に行つていきましょう。

